

ポートフォリオの作成方法

(1) ポートフォリオの領域

在宅医療連合学会では在宅医療専門医に求められる能力を大きく「領域」としてわけ、下位項目として「項目」を設定しています。ポートフォリオを作成する際には、学会が定めた10領域・49項目の中から、必須項目（がん疼痛緩和と認知症）を含む10領域15項目（実践者コースは10項目）を選択します。症例は在宅で関わった症例を対象とし、主に入院や外来で関わった症例は不可とします。

プログラムコース受験者：必須項目を含む10領域15項目を作成します。全ての領域について最低1項目が必要です。

実践者コース受験者：必須項目2項目と、「A分野」「B分野」それぞれから重複しない4領域を選択し、1領域につき1項目、8項目のポートフォリオを作成します。必須2項目＋選択8項目でトータル10項目の作成が必要です。

(2) 提出するポートフォリオの形式

- ① 15項目（実践者コースは10項目）のポートフォリオの一覧を作成し、提出します。（所定の書式あり）
- ② 各項目に関するポートフォリオを作成し、提出します。
 - 一項目につき、A3 1枚、横書きで作成してください。縦書きは不可とします。
 - 作成にあたっては、図表や写真などを組み込みやすいプレゼンテーションソフト（Power point、Keynote等）を使用してください。雛形がありますので、適宜利用をお勧めします。手書きのものは不可とします。

(3) ポートフォリオ作成のポイント

- ① 研修者はそれぞれのエントリー領域において、自らの実践が在宅医療専門医にふさわしい高いレベルにあることを示す必要があります。従来の論文やケースレポートの形

式ではないことに注意してください。必須形式として、[Cover Letter] [事例]

[考察] [Next Step] [参考文献] (詳細は以下で説明)を盛り込んでください。また、ポートフォリオ作成については指導医との対話が必要不可欠です。プログラム受験者は指導者とよく話し合いながらポートフォリオを作成し、[指導医の自筆のサイン]をポートフォリオに記載するようにしてください。(印鑑は不要)実践者コースでの受験者も他職種や同僚などとディスカッションを通して作成することでよりよいポートフォリオの作成につながります。実践者コースの受験者は指導者のサインは特に必要ありません。

この形式に則っていないポートフォリオが1つでもある場合は一次選考の段階で不合格となります。

[Cover Letter]

ポートフォリオの事例を選択した理由(なぜこの事例が当該エントリー領域において自分の能力を示す事例といえるのか)や検討課題を抽出するに至った過程、テーマに対する思いといった読者に対する導入部分です。

[事例]

事例の選択については、自分の能力を示すにふさわしい事例という観点から選択してください。成功事例を取り上げる方が能力は示しやすいですが、課題が多かったケースやうまくいかなかったケースを記載する場合には、問題となる状況をどのように分析して対処し、その実践をどう評価して次のステップにつなげていったかという成長のプロセスを記載しましょう。最終的に専門医にふさわしい実力があることを示すことができれば問題ありません。受動的な経験事例(地域ケア会議やサービス担当者会議に出席・参加したのみなど)は不適切との評価を受けることがありますので、ご自身が十分に関わり、自身の実践を客観的に評価、振り返り、次に繋げることができた事例を選択してください。

記載にあたっては自分の思考経過を言語化し、ケアや診療において自らが工夫した経過・結果が分かるようにしましょう。その際に、自己流の実践ではなく、問題解決に役立つ分析方法や思考の枠組み(=フレームワーク)を適用しながら実践したことを記載します。事例の提示にあたって、年齢、性別は必ず記載してください。経験時期はX年9月といったように、症例を特定しにくいように記載してください。薬剤名は商品名[®]または一般名、どちらでもかまいませんがどちらかに統一してください。

[考察]

事例や学習した事柄を振り返ってまとめます。その際に、独りよがりの考察ではなく、様々なフレームワークや論文を参考にしながら「提示した事例では何が起こっていたのか」「自分の実践をどのように評価するか」について考察した内容を記載してください。なお、フレームワークの妥当性を検証することはポートフォリオでは求められていません。

[Next Step]

今後どのように自分自身の実践をブラッシュアップしていくかについて、考察と必ず項目を分けて、新たな検討課題および学習目標を設定してください。

[参考文献]

活用したフレームワークや論文などを参考文献として記載します。以下の表記方法（例）に従い、各引用箇所に番号を振り記載すること

<参考文献 表記方法（例）>

- ① 厚生労働省発表：新型コロナウイルス感染症対策の基本方針. 令和2年2月25日 <https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000599698.pdf>
 - ② CHEN, Nanshan, et al. Epidemiological and clinical characteristics of 99 cases of 2019 novel coronavirus pneumonia in Wuhan, China: a descriptive study. *The lancet*, 2020, 395.10223: 507-513.
 - ③ 一般社団法人 日本環境感染学会：医療機関における新型コロナウイルス感染症への対応ガイド 2020, 第2版. pp.1-12
-
- ② ホームページより雛形がダウンロードできます
雛形はそのまま使用しても構いませんし、形式をきちんと満たしていれば、レイアウト、色彩の変更や写真の使用などは自由です。写真の使用やカラー印刷など、見る人にわかりやすい内容にすることを心掛け、ご自身のセンスで創意工夫してください。

なお、過度に大きい、あるいは小さいフォントサイズも好ましくありません。フォントサイズについても雛形ファイルを参考にしてください。事例の説明とは関係ない無意味な写真やイラストの貼り付けは評価が下がります。

また、他学会（プライマリケア連合学会、医学教育学会など）の資格認定試験用のポートフォリオの貼付はたとえ上記項目を満たしていたとしても一次試験で不合格とします。

- ③ 15項目（もしくは10項目）のポートフォリオの中で様々な形式のポートフォリオを作成することが望ましいと考えます。一症例を取り上げた検討だけでなく、同様な症例を複数集め検討するケースシリーズ、地域に介入した事例やアンケート調査など実践中に様々な取り組みを行った軌跡が伝わるポートフォリオを作成してください。すべてが一例報告のものは経験症例数が少ないとみなし、減点の対象となることがあります。
- ④ 在宅医療連合学会ではポートフォリオ作成支援としてポートフォリオ講習会を開催しています。講習会ではポートフォリオについての基本的知識を学んだり、実際の作りかけのポートフォリオを持参していただければ指導医の指導を受けたりすることができます。ポートフォリオの作成は当ホームページのガイドだけではなかなかイメージがつかみにくいところがあるため、受験にあたっては講習会に参加されることを強くお勧めします。

また、専門医試験の受験申請者を対象に「ポートフォリオ作成に関する基本レクチャー（WEB配信）」を予定しておりますので、申請者はポートフォリオ提出前に視聴することを強くお勧めします。

（４） ポートフォリオの具体例

- ① B2-④ 患者中心の医療・その他
「Bad news telling を自分が主治医として行ったケースを抽出し、診療録からコミュニケーションの内容を分析した
- ② A5-① 困難事例への対応
「チームで対応した困難ケースについてまとめた」
ケースをポートフォリオにまとめて提出する場合、類似のケースを複数経験した場合は、ケースシリーズとして検討してもよいですし、事例の中から最も自分がうまく関わったケース、課題が多かったケースなど一つにしぼっても構いません。

③ A4-① 急性期対応

「一年間に行った時間外対応のログ（一覧表）をもとに診療所全体の急性期対応を分析し、考察を加えた」（ログをそのまま貼付したのみのはポートフォリオとしては認めません。）

④ B5-②在宅医療の質改善プロジェクト

「在宅医療の質を改善するためにシステム改善を提案して、とりくんだ経過やその成果を報告する」

- これらのほか、ホームページに保存されている優秀ポートフォリオも例として参考にしてください